

第1章 枕崎市水道ビジョン策定の背景と趣旨

1. 1 枕崎市水道ビジョン策定の趣旨

本市の水道事業は、昭和16年創設工事（片平山配水池・深浦ポンプ場他）の完成によって上水道の供給を開始し、平成28年で75年を迎えました。この間、市勢の発展や市民生活の向上に伴う水需要の増加に対応するため、第1次から第3次の拡張事業において、浄水場の新設や新規水源開発、別府地区の上水道への編入、地域水道の給水区域への編入、老朽管更新事業など水道施設の整備を行い、安全で良質な水道水の安定供給に努めてきました。

現在は計画給水人口22,200人に対し、計画1日最大給水量13,100m³/日とする第3次拡張事業計画（平成16年変更）により事業を推進しています。

一方、日本の総人口は、平成22年にピークとなり、以後、人口減少社会の本格的到来による水需要の減少、地球温暖化や大規模地震の発生による自然災害、需要者ニーズの多様化など、水道事業を取り巻く環境は大きく変化しています。

また、事業経営は、水量増加に伴う料金収入の増加が見込めない一方で水道施設の老朽化に伴う更新費用の増大に対応する必要があり、厳しさを増していくものと考えられます。

このように水道を取り巻く環境が大きく変化していることから、平成25年3月に厚生労働省より「安全」「持続」「強靱」の3つを施策の柱とする「新水道ビジョン」が公表されました。

平成23年3月に発生した東日本大震災及び平成28年4月の熊本地震の教訓を踏まえて、自然災害等による被災を最小限にし、安心して飲める水道や人口減少期においても長期的に安定した事業基盤を持ち信頼される水道を構築することが求められています。

本市水道を次世代に引継ぎ、将来にわたって安全で良質な水の供給を維持し続けるために、事業の現状と将来見通しを分析・評価して本市水道事業の将来像とその実現に向けた方策を示すものとして「**枕崎市水道ビジョン**」を策定することとしました。

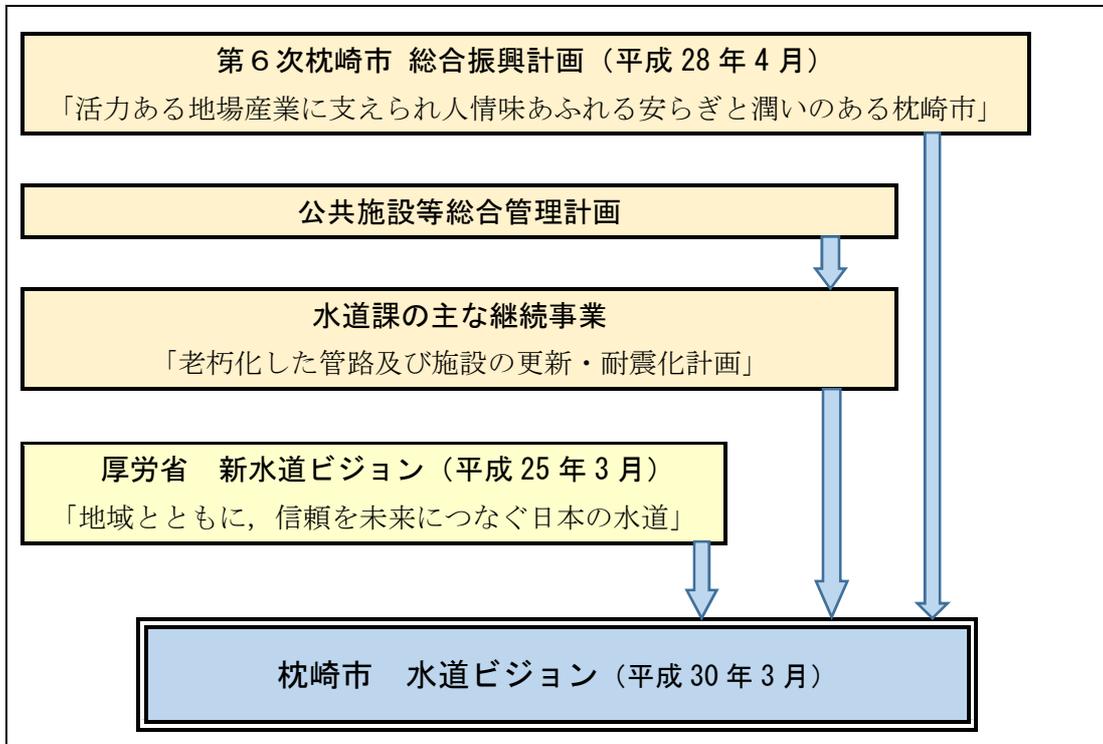
1. 2 枕崎市水道ビジョンの期間

枕崎市水道ビジョンの計画期間は平成30年度を初年度とし、平成49年度を目標年次とする20年間とします。

なお、社会的・経済的諸条件の変化を踏まえ、達成状況及び進捗状況について定期的に検証しながら、必要に応じて見直しを図るものとします。

1. 3 枕崎市水道ビジョンの位置づけ

枕崎市水道ビジョンは「第6次枕崎市総合振興計画」を上位計画と位置づけ整合を図っていくこととします。



<参考>

厚生労働省「新水道ビジョン」：取組の目指すべき方向性

